

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第80回 ●

■ リオ・オリンピック

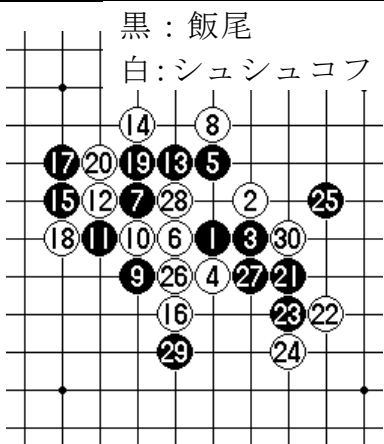
4年に1度のスポーツの祭典、リオ・オリンピックが終わった。前回のロンドン大会はドイツで見ているの思い出すと、やはり久しぶり感がある。何しろ世界戦の周期の倍でもある。世界最高のガチンコ勝負を今回は堪能できた。今年はこちらようど長いお盆休みに当たったので、ほぼ見る事ができた。日本は今回メダララッシュだったのが、特に体操、卓球、バドミントンはメダル獲得の瞬間を見る事ができ、感動した。「あ、連珠もマインドオリンピックの競技になって、日本中の期待に応えられる日がこないかな」とも思った次第である。もちろんその日が来るのは夢であろう

が、このぐらいの夢は持つておいた方がいい。さて、メダルの獲得数を前回大会と比較してみると、

<ロンドン>		
金	7	銅 17
銀	14	
合計	38	個
<リオ>		
金	12	銅 21
銀	8	
合計	41	個

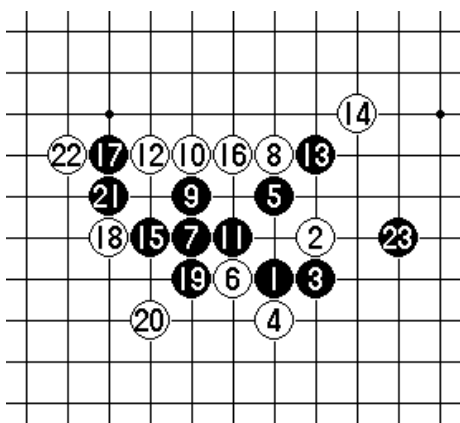
というように、金メダル数も過去最多となっている。要因はいろいろあるが、指導者の充実という要因が大きいといろいろなメディアで書かれている。連珠においてもこれは同じで、良き指導者が良き選手を育てるのは間違いないだろう。これまで競技者人口の増大ばかりに目が行っていたが、それを達成するには指導者を育成することが重要だ。ただし、連珠の場合は指導者の定義が難しく、初心

者への指導ならわかりやすいが、メダルを獲得するための指導になると、なかなか難しい。「強くなるための環境作り」になるのかもしれないが、まずは国内でのA級リーグを充実させることが現実的だろうか。研究に話を移そう。今年のチーム戦の棋譜をぼちぼち並べていたら、飯尾―シユシユコフ戦が目についた。

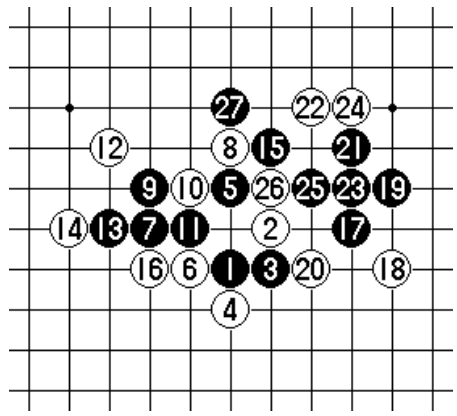


雲月黒5は黒有利だが、白は防ぎに自信があったのだらう。白8は初めて見た防ぎで、対して飯尾さんは黒9、11と構えたが、白12で難しくなり、白30まで完

全に押さえられてしまった。白8なら黒勝てるのでは？ と思ったので、調べてみることにした。

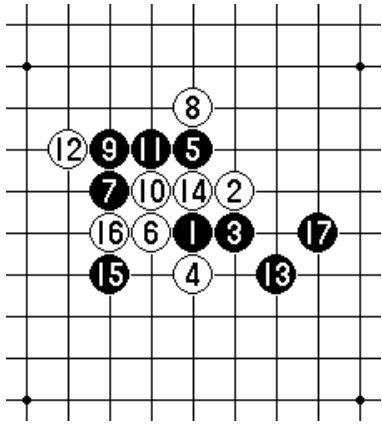


白が打たなかった黒9に構えるのが当然目が行く所で、これで勝ちなら言うことない。対して白10なら、黒11から引き出して勝てる。白16を伸びなければ、黒から16に打って良い。黒23で以下両四追いである。また、次図の白10なら、同じく黒11から引き出して勝てる。前図と同じように17の地点に打つのが急

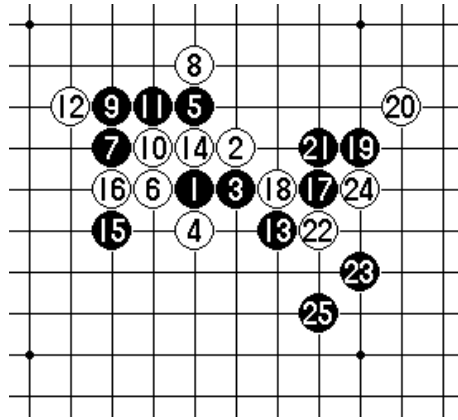


所となる。

白は10と打つのが最善で、これで黒勝ちを出すのは難しい。ここは腰を据えて考えた結果、黒17までの組み立てを発見。

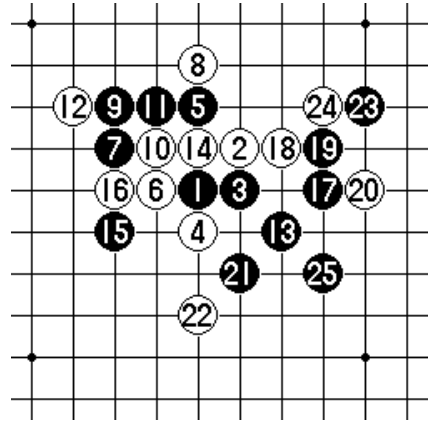


黒13との連携が良く、これなら勝てそうだ。勝ちを出すにはまずいい形を目指すのが一番つつり早い。

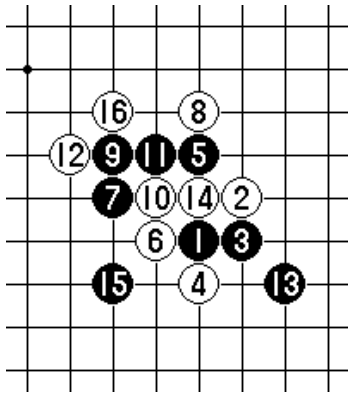


白18の防ぎなら、黒19から黒15と組み、白22の防ぎには黒23と叩き、黒25と手広く構えれば、白はもう防げない。

また、白18と四ノビをしてから白20と防ぐのも、黒21の後の黒23の組み立てが、いかにも好形という感じだ。白24なら黒25と構えてしまえばこれはさすがに黒勝ちだろう。

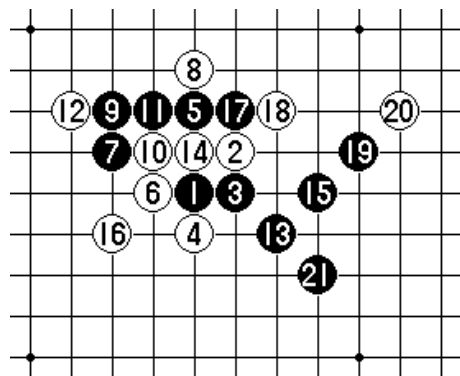


さて、これでようやく黒勝ちが出たと思っていれば、次図のように白16を外止めされることに気が付いた。



上辺を厚くされると黒は呼手を打てなくなる。これは困った、と思ったが、それ

れなら、黒15を省略する手はないかと考えたのが次図である。



黒15に白16とノリ手を打たれるのが白は強そうだが、黒21までを防いだ手なのだが、実は白16を17と引けば逆転白勝ちになる。だから黒15では17に引いておく必要がある。

冒頭の白8に対してこのぐらい調べておかないと黒9とは打てない。こういった引き出しを数多く持つておくことが勝ちにつながる。と思うている。